いただきます

平成２５年６月第２週放送

「いただきます」

ご飯を食べる前に、手を合わせて多くの人が口にする言葉です。

この言葉に込められた意味は、私たちが口にする肉や野菜など、それらはすべて命であり、その命をいただくということ。そして、この食事は多くの人の手によって私たちのもとにもたらされ食事となっているということです。

他(た)の命を食べなければ生きられない私という命。そして、自分一人だけでは豊かな食生活を営めないという現実。

つまり、「いただきます」とは、私たちの謙虚さや感謝の気持ちの表れなのです。

しかし、お金さえ出せば、コンビニやスーパーでいくらでも食べ物を買ってお腹をいっぱいにできるという方もいることでしょう。今の時代、それは当たり前の意見だと思う方も少なくないのかもしれません。

ある学校で給食の時、いつも「いただきます」とお唱えしてから食べはじめていました。すると、ある保護者から「いただきます」というのは宗教教育だから辞めて欲しいという苦情が寄せられたのです。学校側がとった対応は、「いただきます」のお唱えをやめて、笛の「ピー」という合図で給食を食べ始めることだったそうです。

この光景を想像してみてください。笛の合図で食べ始める子供たちの姿。それはまるで、調教されている動物のようです。

永平寺や總持寺をはじめとする曹洞宗の修行道場では、食事の前に数多くの偈文(げもん)をお唱えします。食事の偈文の最後の言葉で「いただきます」に代わる言葉は「皆共成仏道(かいぐじょうぶつどう)」。「生きとし生けるものすべてが共に成仏しますように」という願いの言葉を唱えます。

なぜ、食事の前に願いの言葉なのでしょうか。

それは、自分の修行のため、自分が生きるためにいただく食事だからこそ、願うのではないでしょうか。そして、命に対する謙虚さや感謝の気持ちを一番重く感じなければならないからこそ、願うのではないでしょうか。

修行道場と家庭を重ねることはできないかもしれませんが、他の命をいただいたその先に、あなたは何を願うのでしょう。

「いただきます」いつも何気なく言っているこの言葉。この言葉の意味を改めてかみしめてみませんか。

― 終 ―